

第27回 公開研究会

概要

近年、不登校の子どもが急増するなかで、子どもの学びを、学校はもちろん、社会全体で支えていこうとする取り組みが広がっています。こうした取り組みのキーワードの一つが「多様な学び」です。

「多様な学び」とは、学ぶ場所、時間、仲間、学び方、学ぶ内容、支援のあり方、評価の方法など、学びに関わるさまざまな面において、選択肢や柔軟性を持たせることを意味しています。不登校によって学びの機会から取り残される子どもを一人でも減らすためには、学校や社会がこの「多様な学び」をどのように保障しうるかが問われています。

そこで今回の公開研究会では、東京学芸大学で取り組まれた2つの研究活動の事例を手がかりに、この問いについて考えます。

プログラム

(1) 「フリースクール×STEAM教育にみる学びや支援の多様性」

話題提供：吉村 健志

(特定非営利活動法人東京学芸大学こども未来研究所STEAM教育プロジェクト専門研究員)

フリースクールに通う子どもたちを対象にしたSTEAM教育の実践を手がかりに、学校外の学びの場で子どもの主体的な学びが生まれる時、そこにはどのような場や活動、支援のあり方が寄与するのかについて考えます。

(2) 「多様な学びと成績評価をつなぐAI活用の可能性」

話題提供：金子 嘉宏（東京学芸大学教育インキュベーション推進機構教授）

子どもの活動の音声データ、ワークシートの画像データ等の多様なデータを、複数の教科の評価規準、非認知能力に関する評価規準から分析し、評価やアドバイスを生成するAI活用の実践研究の事例を手がかりに、特に教室外での多様な学びと学校の成績評価が結びつけられることの可能性について考えます。

※この研究会で発表される内容の一部（プログラム1）は、東京都『令和6年度 学校外の子供の多様な学びに関する調査研究事業』による研究成果の内容になります。

ご参加に際して配慮の必要な方は、
2週間前までにお知らせいただきますようお願いいたします。

お問い合わせ：  info@suretgu.com



sure
for All
Children